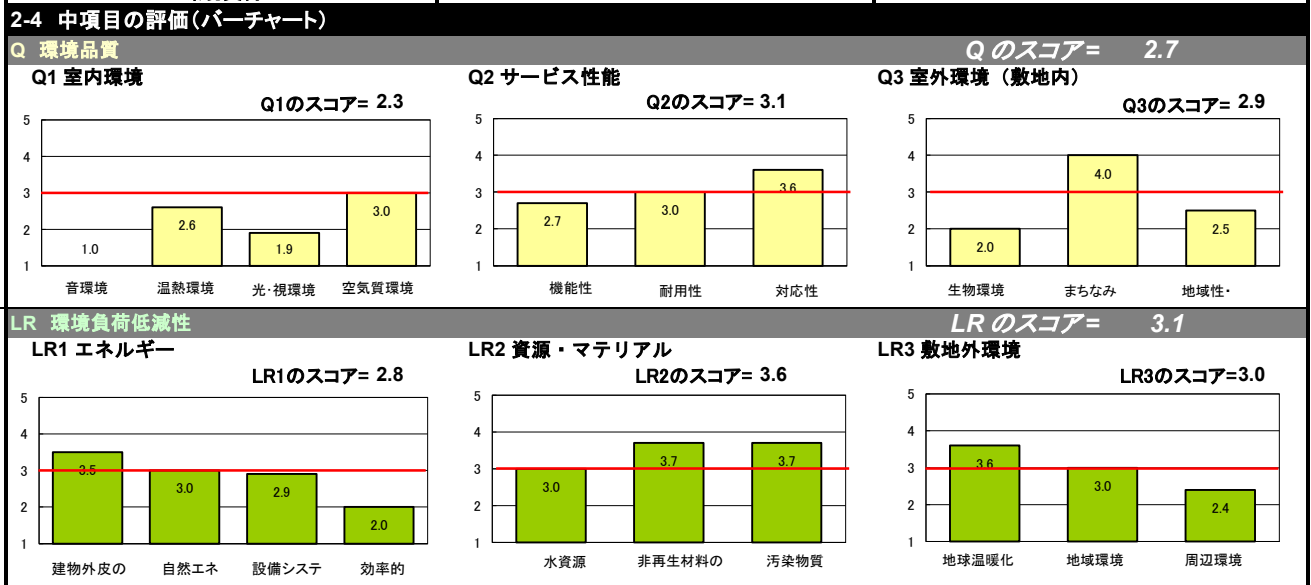
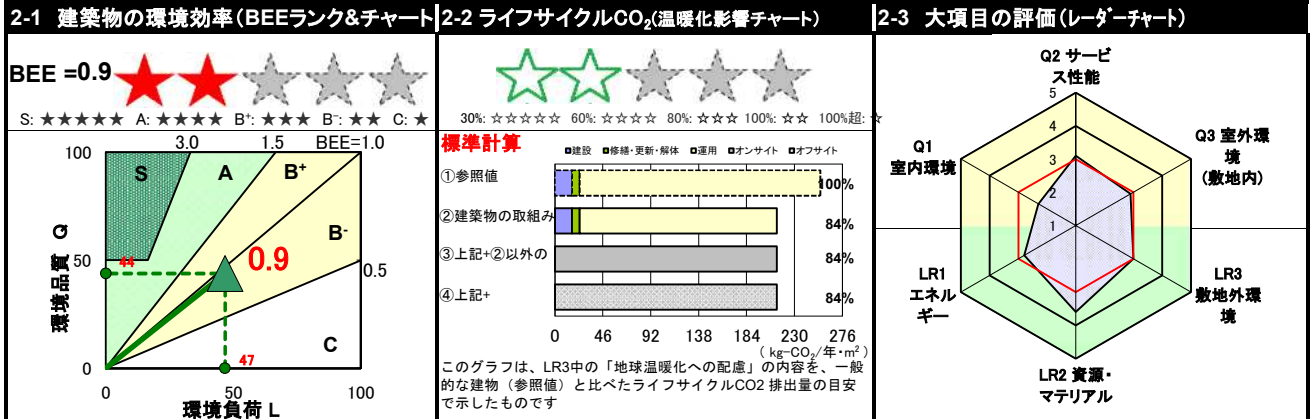


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	イオスタイル入曽駅前新築工事	階数	地上2F
建設地	埼玉県狭山市大字南入曽字堂ノ前	構造	S造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	873 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,飲食店,工場,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年2月5日
敷地面積	10,256 m ²	作成者	
建築面積	5,579 m ²	確認日	
延床面積	10,170 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 小学校跡地の敷地として、既存樹木の樺を現存させ、利用しやすく親しみやすい商業施設として計画されている。 外観は地元狭山市の茶畑をイメージしたデザインとされており、交通アクセスにも配慮した利用しやすい計画とされている。		その他 特になし
Q1 室内環境 すべての仕上げ材に建築基準法規制対象外となる建築材料を使用している。加湿・除湿機能を有する設備を導入し、室内環境を良好にしている。	Q2 サービス性能 階高と天井高を確保し、開放感のある設計としている。	Q3 室外環境 (敷地内) 既存樹木を生かした計画としている。敷地内に積極的に緑化を行っている。
LR1 エネルギー 標準的なBELm以下となっている。	LR2 資源・マテリアル 節水に配慮した器具を使用している。	LR3 敷地外環境 建物利用者のための、駐輪場、駐車場のための十分なスペースを確保している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
イオンスタイル入曽駅前新築工事

 ■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.7
Q1 室内環境			0.39		-	2.3
1 音環境		1.0	0.15	1.0	1.00	1.0
1.1 室内騒音レベル		1.0	0.40	1.0	0.40	
1.2 遮音		1.0	0.40	1.0	0.40	
1 開口部遮音性能		1.0	0.94	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能		1.0	0.06	1.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境		2.6	0.35	2.3	1.00	2.6
2.1 室温制御		2.6	0.50	2.1	0.50	
1 室温		3.0	0.49	3.0	0.57	
2 外皮性能		1.0	0.18	1.0	0.43	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.34	-	-	
2.2 湿度制御	加湿・除湿機能を有し45%~55%の範囲の湿度を実現することが可能な設備容量である。	5.0	0.20	5.0	0.20	
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境		1.9	0.25	1.2	1.00	1.9
3.1 昼光利用		2.8	0.50	1.8	0.35	
1 昼光率		1.0	0.06	1.0	0.60	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.94	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		2.0	0.03	1.0	0.35	
1 昼光制御		2.0	1.00	1.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.02	-	-	
3.4 照明制御		1.0	0.46	1.0	0.29	
4 空気質環境		3.0	0.25	3.0	1.00	3.0
4.1 発生源対策		3.0	0.50	3.0	0.63	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.30	3.0	0.38	
1 換気量		3.0	0.49	3.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	0.02	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.49	3.0	0.33	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		1.0	0.49	-	-	
2 喫煙の制御	外部から出入りする喫煙室あり	5.0	0.51	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.1
1 機能性		2.7	0.40	2.0	1.00	2.7
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	1.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		2.3	0.30	2.0	1.00	
1 広さ感・景観	売場の天井高さは3.3m以上である。	4.0	0.33	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		2.0	0.31	-	-	
3 内装計画		1.0	0.36	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外ダクトにガルバリウム鋼板製を使用	5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管、汚水管にB種採用、E種は不採用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.5	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	①過半の衛生設備で節水型機器を採用 ④受水槽は2基に分離されている ⑥受水槽に水道蛇口を設置している	4.9	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.6	0.30	4.0	1.00	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	5.0	0.50	
1 階高のゆとり		各階高さ3.9m以上である	5.0	0.60	5.0	1.00	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率=0.0998(両ラーメン構造であり自由度がある)	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.31	-	-	2.9
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		既存樹木の樫を中心に、緑が多いイメージを形成している。地域性を意識した外観により、親しみやすく街並みに調和したデザインとしている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.93	3.5	0.20	-	-	3.5
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m]= 0.82	2.9	0.50	-	-	2.9
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ボード、ビニル床材、タイル	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体とは別にLGS下地+仕上とあり、部材の再利用の可能性が高いと言える。	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		発泡材を用いた断熱材を使用していない	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率84%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			3.0	0.50	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	イオンスタイル入曽駅前新築工事	BEE	0.9	BEEランク	★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.6	+	2.3	=	5.9
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満		良い 6.0以上	 	非常によい 6.8以上
			  	すばらしい 8.0以上
				   

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.6
＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.6
ライフサイクルCO2排出率84%			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.3
＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
敷地内に現存する樹を残し、それを中心とした計画としている。 外構緑化指数14.24%・建物緑化指数11.35%、外来種に配慮している。 環境に配慮した緑地づくり行い、地域住民が緑に触れ合える環境づくりをしている。 植樹を行っている、外部に散水栓を準備している。			

: 入力欄